

think++ Seminar

これからの社会や都市・建築の未来を思い描くとき、人間をとりまく自然環境や、開発著しいテクノロジーの基本的な知識を得る必要があります。

日本設計創立50周年を期に、様々な分野でご活躍の方々をお迎えして、皆さまと一緒に未来を思い描ききっかけを得る機会となるよう、年に2回のセミナー think++ Seminarを開催します。

第1回技術セミナー：think++ human & technology テーマ：人間とテクノロジーの関係を考える
(5月18日に開催しました。)

第2回文化セミナー (11月)：think++ human & nature
テーマ：人間と自然の関係を考える



NIHON SEKKEI

第2回 think++ human & nature 『火星の暮らしから、ぼくらの日常を考える。』

極地とよばれる場所にも、人の営みは確かに存在しています。

2030年頃には、最初の人類の代表が火星の地を踏み、そんな現実がやって来ます。

「命を預かる」そんな建築の原点が、生身の人間の存在を拒否する場所で試されるのです。

これまでぼくは「地球の三極」とよばれる、南極、北極、エベレストから、地球にある火星まで、極地の暮らしをめぐり、踏査してきました。

剥き出しの極地で人間が普段着の営みを続けていくためには、ていねいでしなやかで、ときにしたたかな、暮らしの所作が必要です。

ぼくが越冬隊員として暮らした南極の昭和基地では、

冒険家のような生き延びるためというよりも、生きている喜びを実感する日常がありました。

極地は、ぼくらが日常を生きる為のヒントに溢れています。

そんな極限の環境のもとで浮彫りとなる『人と住まいの係わりかた』の本質を、ご紹介したいと思います。

日時：2017年11月28日(火) 16:00開場 > 16:30開演 > 18:50終了

会場：国立新美術館 3階講堂 (東京都港区六本木7-22-2)

セミナー当日は、国立新美術館の休館日で展示は行われていません。そのため、乃木坂駅から直結されている通路は閉鎖しています。
乃木坂駅方面からは西門を通り正面入口からお入りください。

講演者：村上祐資 (極地建築家)

講演タイトル：『火星の暮らしから、ぼくらの日常を考える。』

参加費：無料 定員250名

お申込：日本設計コーポレートサイトからお申込下さい。

<https://www.nihonsekkei.co.jp>



村上 祐資 YUSUKE MURAKAMI

1978年生. 極地建築家.

宇宙や南極など、極限環境下における建築や暮らし方を踏査. 第50次日本南極地域観測隊の越冬隊員として昭和基地で地球物理観測に従事(2008-10). 米国The Mars Societyが実施した長期火星実験生活「Mars160」の副隊長としてミッションに従事(2013-17). 公益財団法人日本極地研究振興会・理事.NPO法人日本火星協会・理事及びフィールドマネージャー. 全国36局ネットJFNラジオ「ON THE PLANET」水曜パーソナリティ.
東京大学工学系研究科博士課程退学.